幼児教室 もじ★かずくらぶ の教育情報誌

パルフェ Vol.2

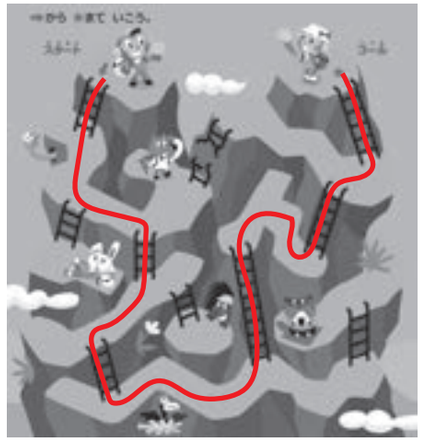
幼児期に取り組みたい遊びや学びを特集【第2回】迷路

その効果と取り組みのコツを脳の専門家・篠原菊紀先生が解説します。

園でご回覧ください

※家庭学習教材「月刊幼児ポピー」より転載しています。 **答えは裏表紙に掲載しています。**

問題の答え



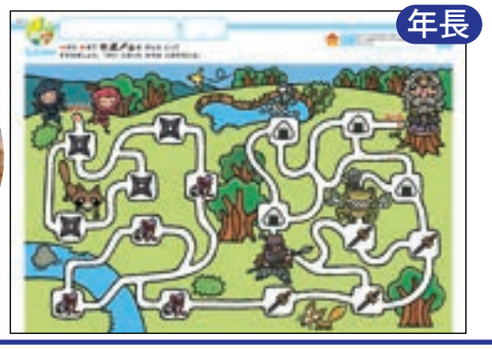
もじ★かずくらぶで楽しく「迷路」遊び！

幼児教室「もじ★かずくらぶ」では、3歳～5歳クラスを対象に、遊びながら、もじやかずに親しみ、ことばを豊かにし、考える力・表現する力（非認知能力）を身につけます。各学齢の成長に合わせ、こうした「迷路」などの「ちえ遊び」にも取り組みます。

年少

年中

年長



幼児教室「もじ★かずくらぶ」を運営する新学社はこんな会社です

全国の小学校・中学校で使用されているドリル、ワーク、資料集などの図書教材の出版社です。また、幼児～中学生向けの家庭学習教材『月刊ポピー』を全国のご家庭にお届けしており、『幼児ポピー』も 40 年以上の歴史があります。「もじ★かずくらぶ」の教材には、そうした教材作りのノウハウも活かされています。

もじ★かずくらぶ

ホームページ「もじかずひろば パルフェ」では、
「教育情報」や「指導の工夫」などをご紹介しています。

https://www.sing.co.jp/mojikazuclub/

やってみよう！　めいろ

※家庭学習教材「月刊幼児ポピー」より転載しています。

答えは裏表紙に掲載しています。

篠原菊紀先生からもう少しアドバイス

「脳」はきわめて効率的にできた情報処理機関です。似た事項はどんどん簡単に処理できるようになっていき、脳活動は小さくてすむようになります。ですから、迷路に取り組むにしても、ちょっとレベルを上げる、プラスアルファをする、ということが大切になります。

このような立体迷路では、三次元的な動きの把握に関る頭頂葉が活動しやすくなります。

【脳の専門家・篠原菊紀先生が解説】

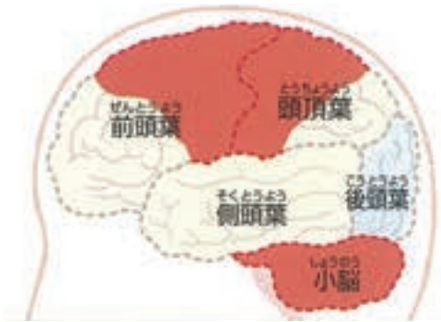
幼児期に「迷路」に取り組みたい理由

幼児期の子どもは迷路が大好き！みんなやりたがります。この「やりたがる」ということはとても大事です。迷路に取り組むことのメリットは、指や鉛筆でなぞる動きが、文字を書くことの基礎につながることです。

最初は指で、そして鉛筆で取り組みます。迷路をなぞる微細な運動調整には、運動野や全運動野だけではなく、線条体、小脳などもかかわってきます。小脳は運動だけにかかわると考えられてきましたが、計算するときや、人の気持ちを感じるときに、補助的な働きをすることが知られています。

また、迷路に取り組むときには先を読む必要があります。「こっちにいったらどうなるかな」をつねに考えなければいけません。近いところを見るのと同時に先を読むことは、注意力の向上や脳のメモ帳・※ワーキングメモリの訓練につながります。

表紙のような条件のついた迷路では、「お花のところだけ通る」などの条件を脳に記憶しておきながら、先を読みつつ迷路をなぞっていきます。そのため、ただの迷路に比べてワーキングメモリを余計に使うことになり、その分、前頭葉が活動を増しやすくなります。



迷路での運動調整に関わっているのが、
の部分です。

※ワーキングメモリ：考える、計画を立てる、がまんする、人の気持ちを理解する、注意して集中するなど、人間を人間たらしめている脳の部分が前頭葉です。その前頭葉の能力を支えるのが、ワーキングメモリです。記憶や情報を一時的に保持し、それを組み合わせて答えを出す力で、知的能力の基礎になります。

篠原菊紀 先生

公立諏訪東京理科大学 情報応用工学科教授（脳科学、健康科学）。東京大学、同大学院教育学研究科修了。『頭がいい子を育てる8つのあそびと5つの習慣』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）など著書多数。NHK夏休みこども科学電話相談など、TV、ラジオ、雑誌でもご活躍。家庭学習教材『月刊幼児ポピー』を監修・指導。